

地域でまもろう！

子どもたちの笑顔



先日、秋田県内において児童に対する大変痛ましい事件が起きました。か弱い子どもを標的にした事件は、いまや都会だけでなく、むしろ人の目が届きにくい個所の多い地方の方が危険性が多くともいえます。こうした事件に立ち向かうには、何よりも地域住民の協力が重要です。子どもたちが一人にならないよう、「地域の目」を高めていきましょう。

子どもを標的にした事件は、ほんの少しのすきを突き、悲しい結末を迎えるケースが目立ちます。抵抗力も警戒心も弱い幼い命を奪う。卑劣な犯行ですが、それを防ぐ決め手も見つかっていない状況です。それだけに親や学校関係者の不安も大きく、解消するのは容易ではないのかもしれない。

「地域安全マップ」で

危険個所を把握

防犯の取り組みは、全国的に広がっています。通学路などを再点検し、危険な場所を洗い出し、防犯活動に反映させる「地域安全マップ」づくりも盛んに行われています。

市でも、市内すべての小学校で、秋田県が主催した「地域安全マップ作成指導者講習会」に

職員を派遣し、さらに、この講習で学んだことを生かして、実際に小学校児童を対象に、マップ作成演習を行う予定です。

大人の目の届かない「死角」をなくそう

しかし、それでも大人の目の届かない空白の場所や時間が生じてしまいます。「落とし穴」はないのか。どこかに「死角」は隠れていないのか。あらゆる手だてを講じ、通学の安全確保に向けて、私たちは周到にしなければなりません。

「地域の目」をもっと高めよう

市内小学校で集団登校を実施しているのは8校中7校、集団下校を実施しているのは6校です。しかし、特に1年生はほかの学年と比べて下校時間が早く、集団で帰っても自宅付近では1人になってしまいます。

今、地域ぐるみの防犯活動が注目を集めています。犯罪者がかつとも嫌がるのは地域住民の視線です。挙動不審な人物に対する「地域の目」をもっと高めたいく必要があるのです。

地域が一体となって取り組む子どもの安全

こうした全国的な流れを受けて、市でも「子ども110番の家」「スクールガード」「教職員による指導」「地域の見守り活動」「社会福祉協議会の巡視」

「市職員による巡視」「警察官によるパトロール」などが行われています。

行政や地域、学校が一体となって取り組む子どもの安全。悲しい事件がなくなることを願い、そういった社会をみんなでつくっていきましょう。



社会福祉協議会でも、子どもたちの下校時間に合わせて車で巡回をしています



子どもたちの駆け込み寺「子ども110番の家」。玄関先にステッカーが貼られています

『子どもたちの安心を地域でつくりましょう』

スクールガードリーダー
多田 實さん（下荒屋）



スクールガードは、不審者から学校や児童を守ろうと始まりました。

最近では通学時での犯罪の増加から、登下校時に地域の巡回を中心に活動しています。

子どもたちとは、大きい元気な声で、「おはよう」「さようなら」と声を掛け合うことで、いざというときに大声を出して助けを呼ぶことができると思っています。

現在は集団で登下校しておりますが、家の近くになってからはどうしても一人になってしまうときがあります。PTAや地域住民が中心となって行っているスクールガードだけでは、目が行き届かないのが実状です。『地域の子どもたちは地域で守る』という気持ちを持って、皆さんと共に、より多くの『地域の目』で子どもたちを見守っていただきたいと思えます。

子どもたちが、安全で、安心して暮らせる地域をみんなでつくっていきましょう。

「安全・安心まちづくり活動」に助成します

県では、地域住民団体が自主的に取り組む安全・安心まちづくり活動に対して助成を行います。該当する活動は次のとおりです。

- ① 犯罪防止活動
- ② 犯罪防止と一体となつて行う災害防止活動

詳細については、生活環境課 ☎3043 へお問い合わせください。